

二〇二二年度

「国語」問題

注意事項

- 1 問題および解答用紙は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙の所定の欄に楷書で記入してください。
- 3 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 問題は1ページから15ページまでです。

〔問題一〕 1～7の文中の——線部(a)～(h)について、漢字はひらがな

で読み方を示し、カタカナは漢字に改めなさい。

1 国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、オカすことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる。

(日本国憲法第11条)

2 脱炭素化の取り組みは世界中で加速している。そもそも気候危機は、利潤を上げるために自然からシユウダツを続ける資本主義が昂進した結果である。

(新聞記事による)

3 私は恐ろしきで起つてもゐてもゐられない。夢中でそこにある半挿の水をのんだ。そのトタンに、辺りの騒ぎが一時に静まつて、森閑として来た。私は、気がついてはつと思つたけれども、もう取り返しがつかない、耳を澄ましてゐるらしい人人の顔を見て、猶恐ろしくなつた。

(内田百閒「件」による)

4 誰やら金槌で釘を打つ音が、幽かに、トカトントンと聞えました。それを聞いたとたん、眼から鱗が落ちるとはあんな時の感じを言うのでしようか、ヒソウも厳肅も一瞬のうちに消え、私は憑きものから離れたように、きよろりとなり、なんともどうにも白々しい気持で、夏の真昼の砂原を眺め見渡し、私には如何なる感慨も、何も一つも有りませんでした。

(太宰治「トカトントン」による)

5 説法の印を結ぶ両手の美しさに至っては、さらに驚くべきものがある。現在の状態では、ここにもくま取りがあつたかどうかはわからないが、とにかくリンカクの線は完全に残っていて、それが心憎いばかり巧妙に「手」を現わしている。

(和辻哲郎『古寺巡礼』による)

6 ジョブ型人事制度の導入には、「従業員の成果に合わせて処遇に差をつけたい」、「若手のトウヨウを促したい^(g)」、「組織の新陳代謝を促進したい」、「年功序列的な賃金カーブを是正したい」などの目的がある。

(新聞記事による)

7 記述式問題と民間試験の導入は、大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストの二本柱だったが、受験生や高校から拙速^(h)だとの批判が強まり、今般正式に断念されることになった。

(新聞記事による)

〔問題二〕 問1、2に答えなさい。

問1 — 線部「オストロゴルスキーのパラドックス（逆理）」が示していることとして、誤っているものを後の選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

政治家を選ぶことと、政策を選ぶことは、まったくもってイコールではない。たんに思想的にあるいは概念的に違うだけでなく、選択の結果として起こることに、論理上の大きな隔たりがある。その乖離^{かいり}のありさまを鮮明に示したのが、これから見ていくオストロゴルスキーのパラドックス（逆理）だ。

いま5人の有権者がいて、政党AとBがあるとしよう。選挙で争点となるテーマは3つ、「金融」「外交」「原発」だ。各テーマについて政党AとBはそれぞれ政策を掲げている。有権者はこれら3つのテーマを同程度に重視しており、各自の政党への支持は図表のとおりとしよう。例えば有権者1は、金融と外交についてはA党を支持、原発についてはB党を支持、総合評価としてはA党を支持する。

ここで過半数の有権者1と2と3は、総合評価としてはAを支持する。だから両政党が擁立する候補へ選挙を行うと、これら3人の支持によりAが勝つ。つまり間接選挙だと、すべてのテーマでAの政策が

採られることになる。

でも直接選挙なら結果は一変する。ここでAやBを政策と見なすと、すべてのテーマでBが過半数の支持を得る。つまり政策への直接選挙と政党への間接選挙では結果が正反対になるわけだ。これを見ると、選挙の結果をたやすく民意と呼ぶ気にはなれない。政党だって、政治家だって、選挙で勝ったから「民意に支持された」というわけではない。

図表) 直接選挙と間接選挙では結果が逆になる
 —オストロゴルスキーのパラドックス—

有権者	金融	外交	原発	支持政党
1	A党	A党	B党	A党
2	A	B	A	A
3	B	A	A	A
4	B	B	B	B
5	B	B	B	B
多数決の結果				
	B	B	B	A

- ア 有権者1・2・3は政策の抱き合わせを選ぶことしかできないために、A党に投票することになる。
- イ 金融政策の面ではB党の政策を支持する有権者が多いのに、結果としてA党の政策が施行されることになる。
- ウ 支持する政党の多数決ではA党が選出されるが、政策別で見ると民意としてはB党が支持されている。
- エ 有権者3は、金融政策の面ではA党支持ではなかったが、A党に投票した結果、支持する金融政策が施行されることになった。
- オ A党は間接選挙では勝ったが、この選挙は有権者の民意を正確に反映した結果とは言い難い。

問2 次の文章はある新聞記事の一部です。どのようなことを提案している記事ですか。最も適当なものを後の選択肢から選び、記号で答えなさい。

おすすめは、市販の冷凍食品や加工品、総菜を活用することだ。

例えば、市販の「冷凍ギョーザ」と「冷凍ほうれん草」を入れたスープを作れば、ギョーザでたんぱく質、冷凍ほうれん草でカルシウムと、両方の栄養素が摂取できる。

つぶした豆腐と練りごま、マヨネーズに、総菜として買ったひじきの煮物を加えれば、食物繊維やカルシウムとともにエネルギーも摂取できる。たんぱく質を取れるサラダチキンは、コンビニなどでも購入でき、「もう一品」のおかずにおすすめだという。

また、調理のちよつとした工夫で食が進みやすくなる。食材を小さく切ったり、長めに煮たりすると、かむ力が弱くなった人でも食べやすい。高齢になると唾液が少なくなるため、豆腐やなめたけといったのみ込みを助ける食品を取り入れるのも効果的だ。

(新聞記事による)

ア ささまざまな食材を簡単に手に入れることが難しい高齢者に、コンビニの活用法を提案している。

イ どうしても食が細くなりがちな高齢者に、食が進むようになる食事の際の環境の整え方を提案している。

ウ 市販の冷凍食品や加工品を使うことに罪悪感を持つことの多い高齢者に、それらの上手な使い方を提案している。

エ たんぱく質などの身体を構成する栄養素についてよく知らない高齢者に、栄養成分表示に注目することを提案している。

オ 栄養バランスのとれた食事作りが難しかったり、かむ力やのみ込み力が弱くなったたりした高齢者に、食事に関する工夫を提案している。

〔問題三〕 次の文章は江戸時代の随筆『安斎随筆』の一節です。本文を読んで後の設問に答えなさい。

(1) ある問ひて曰く、「元和^{※1}の初年のころのこととかや、甲州^{※2}武田家^{※3}の武士浪人となりて、町に借宅し居て、大家へ仕へんことを求むる者ありしが、年は経れども望を遂げず。貧窮に迫りて餓死しけり。死後に鎧櫃を開きて見るに、金子百両封じて軍用金と書きつけあり。武具馬具も貯へてありしとぞ。」この浪人を評して或は曰く、餓死するに至れども武具馬具を売らず、軍用金をさへ使はずしておきしは、真の武士なりと賞讃する人もあり。」或はその浪人は大愚人なり、貧窮ならば軍用金にて米を買ひて食し、餓死せずして待たば善き主君を得ることもあるべきを、金子を持ちながら餓死したるは愚人にあらずして何ぞやと嘲る人もあり。」この両説いづれをⅠとし、いづれをⅡとせん、いかが。』答へて曰く、予は両説の是非を論ずるに及ばず、かの浪人武田勝頼戦死の時討ち死にせず存命したるのみならず、二君に仕へんことを求めしは、不忠不義なる者なり。不忠不義なる上はほかのことは評するに及ばざるなり。

※1 元和：元号（一六一五年～一六二四年）

※2 甲州：甲斐の国の別称。現在の山梨県。

※3 武田家：姓氏の一つ。この浪人は武田勝頼に仕えていた。勝頼は武田信玄の子。長篠の戦いで大敗。一五八二年天目山で自刃し、武田家は滅んだ。

問1 —— 線部(1)「ある問ひて曰く」とありますが、ある人が質問した内容はどこまでですか。』から一つ選び、記号で答えなさい。

問2 —— 線部(2)「両説」とありますが、それぞれどのように浪人を評価していますか。本文中から動詞を抜き出して答えなさい。

問3 空欄ⅠⅡに本文中から漢字一字をそれぞれ抜き出し、本文を完成させなさい。

問4 —— 線部(3)「不忠不義」とありますが、餓死した浪人はなぜそのように評されてしまったのですか。その理由として適当なものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 百両もの金子を死蔵していたから
- イ 武具や馬具を使用せずに死んだから
- ウ 武士たるものが餓死するのを待っていたから
- エ 主君と生死を共にしなかったから
- オ 主君亡き後、他家に仕えようとしたから

〔問題四〕 次の文章を①～③の条件にしたがって、八十字以上百字以

内で要約しなさい。

- ① 三文で要約すること
- ② 第二文の書き出しを「しかし」、第三文の書き出しを「つまり」で始めること
(……………。しかし……………。つまり……………。)
- ③ 解答欄の一マス目から書き始め、句読点も一字に数えること

「絶滅危惧種 ポスター」と検索すると、そう認定された生物を保護することの必要性を訴えた数多くのポスターの画像を目にすることができる。ある企業のポスターは「ゾウさんはいなくなっちゃったの?」「トラさんごめんさい」というキャッチコピーと共に、子どもが描いたと思われるゾウとトラの絵を載せている。他にもパンダ、シロクマ、カワウソ、ラッコ……様々な動物が絶滅危惧を訴える存在としてポスターに登場している。皆、つぶらな目をした霊長類、肉食動物、有蹄類ばかり。私たちが「かわいそうだからなんとかしなくちゃ」と、絶滅から守る対象として思い浮かべるのはとかくこういつた「象徴種」ばかりである。

「象徴種」というのは、人々の関心を集めることができ、保全事業を進めるときの社会的な合意を得るのに利用できる種のことである。ゾウやトラ、パンダは他の生物より顔立ちが人間に近く、「かわいい」

「かわいそう」と私たちに思わせるのに充分である。象徴種によって集まった資金は主に象徴種の保護のために使われる。事実、動物保護を目的としたNPOの資金は、大半がゾウやジャイアントパンダなど、象徴種に使われており、人気の高いトラのほとんどが生息しているインドでは、二〇一九年にトラの保護だけで五十三億円以上が費やされた。

一方で知名度の低い魚類や爬虫類、両生類、鳥類など、象徴種に該当しない多くの種が人知れず苦しんでいる。この、数々の生物の実態が知られていないことは大きな問題である。フィリピンワニは約百頭にまで減少し、かつてヨーロッパ全海域に生息していたカスザメは北海で絶滅した。中央および南東ヨーロッパの洞窟に生息している、数少ない完全水棲両生類であるホライモリも、滅びゆく生物の一つだ。植物や無脊椎動物の人気の順位はさらに下の方になる。北米ではホンカワシンジュガイが今にも姿を消そうとしている。このように、世界では三万五千種以上の動植物が絶滅の危機に直面しているのだ。

ゾウやトラ、パンダを応援するのが悪いわけではない。「そうした種が好きだったから、私は保全活動を始めたのです」とイギリスの保全者ボブ・スミスも言う。まずは近い存在の危機を知り、そこから象徴種以外の種にも目を向け、ルールや手立てを講じて保護を検討する。多くの人がそうなるにはどのようなようにしたらよいのかということ、私たちは考えていかなければならない。守られるのが人気者だけ、とまらないように。

(雑誌記事をもとに本校で作成した)

〔問題五〕 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

コロナ禍の日本で生じた現象は、世界の多くの国とまるで異なっていた。日本では、公衆衛生も旧来からの保健所経由の仕組みを臨機応変に変えることができず、検査数もなかなか伸びずで、休業要請も曖昧で補償も十分ではないという、ないない尽くしであったにもかかわらず、第一波では欧米ほどには感染者は増えなかった。そのいくつかある要因の一つとして、圧倒的に強いヨコからの同調圧力は無視できない。

(1) コロナ禍の第一波をあたかも日本社会が乗り越えたかのように見えたのは、コロナ対策が必要とした「ソーシャル・ディスタンス」や「ステイホーム」と、そもそも「外」と「内」を区別する壁を立てがちな日本社会の特性が容易にシンクロしたからである。ここが、イタリア等のラテン系社会のハビトゥスとは大きく異なっていた。国家が強制せずとも、「自粛」を促すだけで、人々は概ねマスクを常用するようになり、家に引きこもり、外出を控えた。

つまり、コロナに対し、中国と欧米が「封鎖」によって応じたのに対し、日本はまず何よりも「自粛」によって応じたのだ。(中略)

(2) 「自粛」を英訳すれば「self-restraint」になりそうだが、この英訳は、日本語の感覚をうまく表現してはいない。「restraint」する

「self」が、必ずしも自分自身とは言えないのが日本の「自粛」だからだ。荻谷剛彦が指摘したように、「自粛」という言葉の奇妙さには、日本社会における「個人と社会をつなぐ関係」の歴史性、つまり「個人」の非在という歴史性が埋め込まれている。つまり、「個人の自己選択・自己決定のあり方を、その社会がどのように理解しているか、いわば主体をめぐり、その社会が共有する知識の違い」が、ここに示されているのである(「自粛の氾濫」は社会に何を残すか)。

佐藤直樹によれば、コロナ禍の日本を覆っていったこの「自粛」の政治を行動させていたのは「世間」である。(中略)

佐藤のこの指摘は、西洋中世史の泰斗阿部謹也によって深められてきた視座を基礎にしている。阿部によれば、⁽³⁾「世間」と「社会」はその構成の根本原理がまるで異なる。一方で、「社会 society」という概念は、「それぞれの個人の尊厳が少なくとも原則として認められるところではか本来の意味を持たない」(『世間』とは何か)。明治以降、日本は西洋の諸制度を取り入れ、文化風俗も西洋化した⁽⁴⁾が、この西洋社会が前提にしていた「個人」と「社会」の関係はついに広がらなかつた。なぜならば、「社会」と異なり、個人を前提とせず、むしろ人々の同質性や互酬関係、長幼の序を構成原理とする「世間」がすでにあり、社会秩序を維持する上ではそのほうが有効だったからだ。「世間」は、家族や地域、職場での日常的な営みやコミュニケー

シヨンのなかに実効的な観念として常に作動しており、人々はこれを社会的に存在している所与の事実として受けとめ、常に意識しないと生きていけないような状況に置かれ続ける。思想としてこの「世間」の圧力に異を唱えることはできるだろうが、日々の生活で「世間」を無視するのは並大抵のことではない。

佐藤と鴻上尚史は、現代日本の至るところで自粛権力を作動させる「世間」は、近代化を経ても日本社会に保持され続けた非近代的性格と、マス・メディアやソーシャル・メディアが媒介しあう閉塞的なメディア環境が連動することでいっそう強化されていると考えている。この議論に従うならば、日本で「世間」の影響力が近代以降も衰えなかったのは、まずはキリスト教のような超越的な神の観念が庶民までは浸透せず、イエやムラ、職場などの、自分が直接的に関係を持つ「身内」を越えた共同性の感覚が育たなかったからである。日本人の多数派は、「内」を「外」から守るために壁を立て、「世間の内側の人間に対しては非常に親切にするけど、外側の人間に対しては無関心か排除する」（鴻上・佐藤『同調圧力』）。日本にはそのような「世間」が積層しており、人々はそれぞれ「身内」のなかで「世間」のイメージを抱いている。そのイメージの同質性が高いので、それらが積層されていったところに、⁽⁴⁾共同幻想としての「世間」が社会的事実として構築されていくのである。

こうして構築された「世間」が、その影響圏にある人々が外に出てしまふのを禁じる際に発動するのが、「他人に迷惑をかけるな」という呪文であり、またそのような何事かが生じてしまった場合、関係者は「世間体が悪い」、もっと深刻ならば「世間に申し開きができない」と考えて、やたらと頭を下げる。つまり、「世間」から排除されることを極度に怖れるのである。佐藤らは、こうした恐怖が、日本社会の几帳面さ、規則を杓子定規しゃくしじょうけいに守り、逸脱することを周囲が防いでいく⁽⁵⁾極度に強い同調圧力の根底にある感情なのだとしている。

現代のソーシャル・メディア環境は、こうした恐怖心を基盤にした同調圧力をさらに強化している。九〇年代以降、新自由主義路線による非正規雇用の増大、格差拡大のなかで従来の意味での「職場＝身内」感覚が崩れ始め、それ以前、すでに高度成長期からムラやイエの感覚は失われていたので、現代日本社会では、「世間」と言ってもその実体的な基盤はすでに脆弱ぜいじやくになっている。まさにそのとき、人々の自己承認への渴望や不安をソーシャル・メディアが媒介し、⁽⁶⁾社会の底に空いてしまった穴を埋める役割を果たしていくのだ。実体的なムラやイエや職場の心理的拘束力が脆弱化するなかで、人々はソーシャル・メディアでのやりとりにより自己承認の場を見出し、⁽⁷⁾そこでも自分の感覚に近いと思える発言に「いいね！」を押して、ネット上にバーチャルな「世間」を成立させていくことに加担する。

佐藤と鴻上は、総務省の『情報通信白書』に基づいて二つの興味深い事実を指摘している。第一に、「SNSで知り合う人達のほとんどは信頼できる」とかという問いに、「そう思う・ややそう思う」と答える人の割合が日本人は極端に低い。ドイツ人は約五割、アメリカ人は約六割、イギリス人は約七割が肯定的に答えるのに、日本人で肯定的に答える人は約一割に過ぎない。つまり、人々は実はSNS上の出会いをあまり信用してはいないのである。

第二に、日本ではツイッターの匿名率が極端に高い。この匿名率は、アメリカでは三五・七％、イギリスでは三一％、フランスでは四五％、韓国が三一・五％、シンガポールが三九・五％なのに対し、日本のツイッターの匿名率は、七五・一％に上るといふ。つまり、日本人は、概してネット上の関係を信用してもおらず、自分の実名を明かすことも少ないのだが、それにもかかわらず、そのネット上で自己が承認されることを求め、そのためにネット上で語られる「正義」に同調し、ネットのなかの「世間」の常識から外れる「他人」を攻撃する。明らかに、この高度なメディア環境のなかに広がるのは、ファシズムの心理である。

(8) コロナ禍でその特異な姿が浮かび上がった「世間」の同調圧力は、日本社会の極度な「風通しの悪さ」を示している。日本では、欧米と比べてのみならず、他のアジア諸国と比べても弱い仕方ではか社会の

「風通しを良くする」仕組みが発達しなかったのだ。たしかに中国のような共産党独裁国家の場合、風通しを封鎖する国家機構が強力である。国家の目に見える強制権力では、中国はもちろん、他のアジア諸国も概して日本よりも強い。それにもかかわらず、というかむしろだからこそ、これらの国々では国家の垂直的な力とは異なる水平的な仕組みが発達しており、それが幾分か社会の「風通し」を良くしてきたのである。

(吉見俊哉『大学は何処へ』より 作問のため本文を改めた箇所がある)

※1 ハビトゥス…人々の日常経験において蓄積されていく傾向や性質、習慣

※2 self-restraint…自己拘束・自制・節制

※3 ファシズム…強権的、独裁的な思想および政治形態

問1 ——線部(1)「コロナ禍の第一波をあたかも日本社会が乗り越

えたかのように見えた」のは、日本社会のどのような事情による
ものですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本人の謙虚で勤勉な国民性が、「自粛」という言葉と容易
にシンクロしたから

イ コロナ対策が国民の主体性に任されたことによって、国民の
創意工夫が生まれたから

ウ ラテン系社会の楽観的な考え方とは対照的な悲観的な考え方
がコロナを恐れさせたから

エ 「他者」との心の距離が遠い日本人にとって、ソーシャル・
ディスタンスを保つのは簡単だったから

オ 周りの人と同じでなければならぬという気持ちだが、多くの
人にマスクを着けさせ、外出を控えさせたから

問2 ——線部(2)「自粛」を英訳すれば「self-restraint」になりそ

うだが、この英訳は、日本語の感覚をうまく表現してはいない
とあります。筆者はどのような点を「うまく表現してはいない」
と考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答
えなさい。

ア 「自粛」には「自己」よりも「社会」の意思が関係している
が、「self-restraint」には確固たる「自己」が存在している点

イ 「自粛」には「個人」の意思は含まれていないが、「self-
restraint」には「個人」の意思を尊重する思想が色濃く表れて
いる点

ウ 「自粛」には「自己」の権利と「社会」の権利が同等に含ま
れるが、「self-restraint」は自己選択や自己決定の権利を重ん
じる点

エ 「自粛」には日本人の「自尊心」の弱さがにじみ出ているが、
「self-restraint」にはラテン系の人々の「自尊心」の強さがう
かがえる点

オ 「自粛」にはあくまで「政府」からの要請に従うというニュ
アンスがあるが、「self-restraint」には「個人」の行動に対す
る政府からの強い拘束力が働いている点

問3 ——線部(3)「世間」と「社会」はその構成の根本原理がまるで異なる」とありますが、「世間」と「社会」の差異を次のように説明しました。空欄に適切な語句を本文中から抜き出しなさい。(句読点や「」などの記号も一字に数える)

「社会」は I (2字) の存在を前提としているが、同質性や互酬関係、長幼の序を構成原理とする「世間」は II (8字) といった集団を基盤としている。

問4 ——線部(4)「共同幻想としての「世間」が社会的事実として構築されていく」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生活を共にする人々以外の集団を、「世間」として創造するということ

イ 共同体内での暗黙の了解が通じるか通じないかによって、「内」か「世間」かの区別をするということ

ウ 「内」の結束を強固にするために、「外」にある「世間」を排除すべきものとして錯覚するということ

エ 身内で共有されたイメージが、厚みを持つことによって実感を伴った「世間」として確立するということ

オ 超越的な神の観念を幻想だと切り捨て、身近な「世間」を西洋における神のような位置に据えるということ

問5 ——線部(5)「極度に強い同調圧力の根底にある感情」とありますが、この「感情」とはどのような「感情」ですか。本文中の語句を用いて、十五字以内で説明しなさい。(句読点や「」などの記号も一字に数える)

感情
(15字以内)

問6 ——線部(6)「社会の底に空いてしまった穴」とありますが、

この「穴」はなぜ「空いてしまった」のですか。理由として適当なものの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 新自由主義路線に従った雇用形態の変化が、人々の仕事に対する意欲を喪失させたから

イ 自分自身を抑圧せざるを得ない、社会から受ける同調圧力が、社会に対する恐怖心を生むようになったから

ウ 人々が移動や職業選択の自由を得たことによって、自己承認の場があちらこちらに分散してしまったから

エ 社会の基盤を構成していた血縁や地縁が希薄になるにつれて、自己承認ができなくなったから

オ 高度経済成長期に大量生産大量消費が推奨されたことによって、世間の価値観がそれ以前とは変わってしまったから

カ 同じ職場で働く人々の立場や境遇がそれぞれ異なってしまったことによって、お互いに身内であるという感覚が失われたから

問7 ——線部(7)「ネット上にバーチャルな「世間」を成立させて

いくことに加担する」とありますが、筆者はなぜ「加担」という言葉を使用するのですか。空欄に適切な語句を本文中から抜き出しなさい。(句読点や「」などの記号も一字に数える)

現代では、人々のⅠ(4字)への欲求を満たすような「世間」を構成していた集団が失われてきた。そのため、人々は失われた「世間」に代わり、ネット上にⅡ(8字)と感じる他者を探し、「世間」を作り出そうとしている。しかし人々は、その「世間」を信用してもいなければ、自分の身を明かすこともしない。そのような「世間」に身をひそめながら、人々は、「世間」の「外」にいるⅢ(9字)ようになった。このような「世間」のあり方への批判をこめて、筆者は「加担」と表現していると考えられる。

問8 — 線部(8)「日本社会の極度な「風通しの悪さ」とありますが、「日本社会」の「風通し」が悪いのはなぜですか。最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 国家の権力に敢然と対抗できるような庶民間の結束が作れないから

イ 国家の権力とは別に私たちが拘束する関係性が身近に存在しているから

ウ 国家の権力を日常的に意識することがないままにそれに依存しているから

エ 国家の権力を絶対的なものとして受け入れるような従順な国民性を持つから

オ 国家の権力に従属することが結局のところ安寧をもたらすと思っているから

(以下余白)

